

釣果写真に基づく奄美大島からのシノノメサカタザメの記録

緒方悠輝也・中野光希・村崎謙太

〒 238-0243 神奈川県三浦市三崎 5-255-10 日本さかな専門学校

Abstract

A single specimen of the Shark Ray, *Rhina ancylostomus* Bloch and Schneider, 1801 (ca. 135 cm total length), was captured by recreational fishing from the Naze port (28°22'57.3"N, 129°29'49.7"E), Amami-oshima island, the Amami Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. The individual was released, but the photographs were taken. These photographs verifiably represent the first record of the species from the island.

はじめに

シノノメサカタザメ科 Rhinidae はシノノメサカタザメ *Rhina ancylostomus* Bloch and Schneider, 1801 の 1 属 1 種から構成される (Last et al., 2016a, b). 本種はインド・西太平洋域に広く分布するものの、漁獲量の増加の恐れがあることなどから IUCN レッドリストでは絶滅危惧 IA 類 (CR) (Kyne et al., 2019), 日本国内のレッドリストでは情報不足 (DD) と評価されている (環境省, 2017).

日本国内において、本種は北海道から沖縄諸島までの複数地点から記録されているが (波戸岡ほか, 2013), これまでに奄美大島からの報告はなかった。2023 年 10 月に奄美大島の名瀬港において、著者らはシノノメサカタザメに同定される軟骨魚類 1 個体を釣獲した。当該個体の大きさと希少性から、標本を残すことは断念したが、種の特徴を確認できる鮮明な写真を撮影した。ここでは撮影した写真に基づいて、奄美大島から初めて記録されたシノノメサカタザメについて報告する。

材料と方法

シノノメサカタザメの学名は多くの文献で *Rhina ancylostoma* とされているが (例えば波戸岡ほか, 2013; Last et al., 2016a, b; Kyne et al., 2019), これは綴りの誤りであるため (Bloch and Schneider, 1801), 本報では原記載の通り *Rhina ancylostomus* を用いた。本報告に用いた釣獲後の生鮮写真は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料 (KPM-NR) として保管されている。なお、同館の資料番号は博物館のデータベース上では 0 を含めた 7 桁の数字で表記されるが (例えば, KPM-NR0249009), ここでは本質的な有効数字で示した。また、資料番号の後ろのアルファベットは、各写真の枝番号を示している。

結果と考察

***Rhina ancylostomus* Bloch and Schneider, 1801**
シノノメサカタザメ (Fig. 1)

写真資料 KPM-NR 249009A-H, 全長約 135 cm, 鹿児島県奄美大島名瀬港 (28°22'57.3"N, 129°29'49.7"E), 水深約 20 m, 投げ込み釣り (餌: 活きたメアジ), 2023 年 10 月 25 日 23 時 00 分, 中野光希 (釣獲者), 松田勇成 (撮影者)。

同定 胸鰭起部は明瞭で眼より後方に位置すること, 胸鰭と腹鰭が接していないこと, 第 1 背鰭起部は腹鰭起部よりわずかに前方に位置すること, 吻端は幅広く, おおむね円形であること, 眼の上部前方から後方にかけての隆起線と肩部隆

Ogata, Y., M. Nakano and K. Murasaki. 2024. First record of the Shark Ray, *Rhina ancylostomus* (Rhinidae) based on the photographs after fishing, from Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 11–13.

☑ KM: Japan College of Fish, 5-255-10 Misaki, Kanagawa 238-0243, Japan (e-mail: murasaki-619@hope.tokai-u.jp).

Received: 1 May 2024; published online: 1 May 2024; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-002.pdf

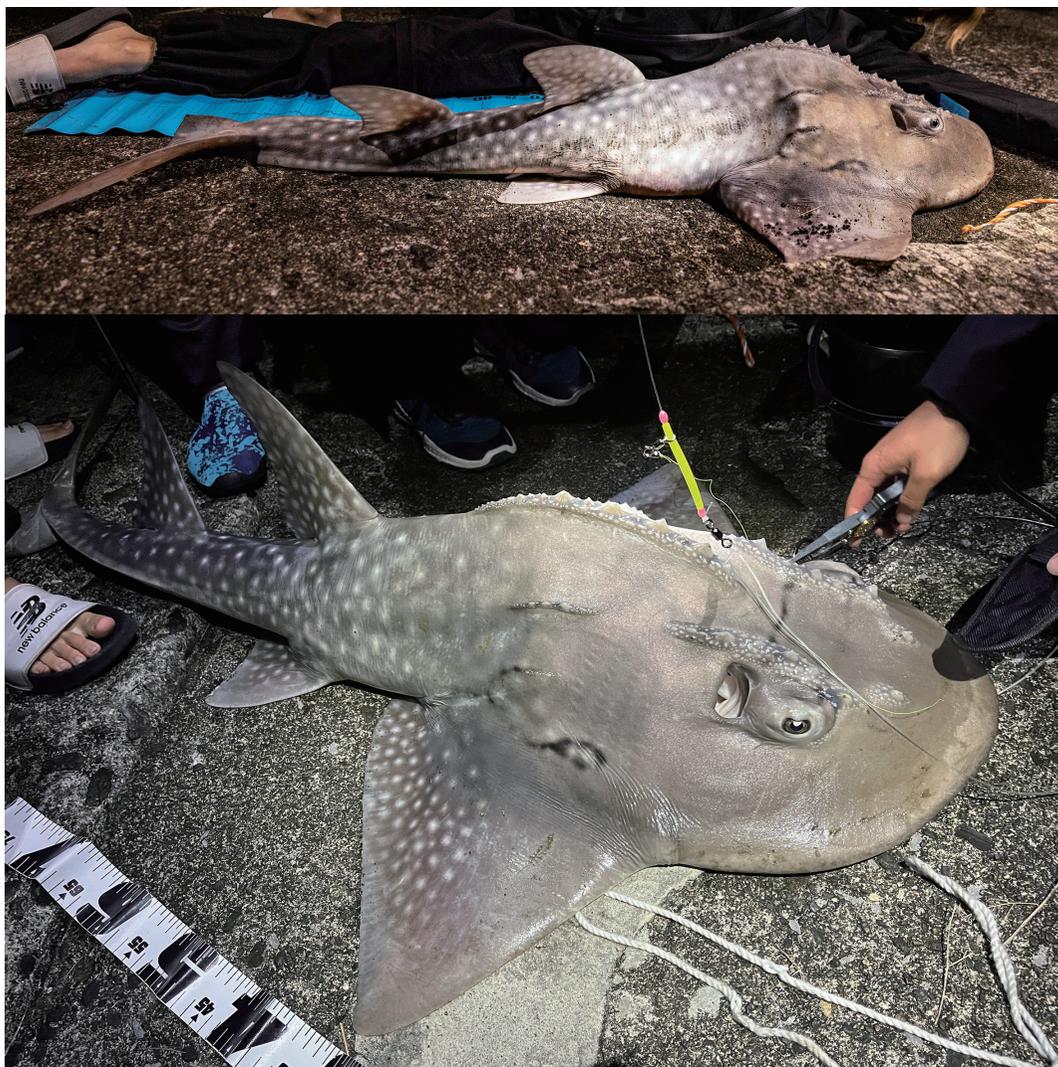


Fig. 1. Photographs of *Rhina ancylostomus* (ca. 135 cm total length) collected from Amami-oshima island, the Amami Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan, on 25 October 2023. Photo number: upper, KPM-NR 249009C; lower, KPM-NR 249009G. Photos by Y. Matsuda. Captured by M. Nakano.

起線上に棘が並ぶこと、頭部背中線隆起に沿って大きめの棘が並ぶこと、背面は全体的に灰色で、胸鰭後半部や体部に多数の白色斑点があること、および胸鰭の基部付近に黒色斑があること (Fig. 1) が波戸岡ほか (2013) および Last et al. (2016a, b) が示したシノノメサカタザメ *Rhina ancylostomus* の標徴に一致したため、本種へ同定された。

分布 本種は南アフリカからニューカレドニア、日本にかけてのインド・西太平洋域に広く分布する (Last et al., 2016b). 日本国内では本土の

太平洋沿岸 (北海道, 青森県, 三陸地方南部, 鹿島灘~九州南岸の太平洋沿岸, 八丈島) と日本海沿岸 (秋田県男鹿桜島, 新潟県村上, 山口県, 九州北西岸, 五島列島), および鹿児島湾, 沖縄諸島など広い範囲から記録がある (波戸岡ほか, 2013; 岩坪・本村, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 園山ほか, 2020; 萬代・小枝, 2022). 本研究により新たに奄美大島からも記録された。

備考 名瀬港から得られた個体は活きたメアジを餌にした投げ込み釣りで夜間に釣獲された。シノノメサカタザメはニベ科魚類などの硬骨魚

類, エビ・カニ類, 二枚貝, および頭足類を捕食することが知られている (Last et al., 2016b). 今回の個体についても既知の食性と一致しており, 本種が夜間に海底付近を遊泳して様々な生物を食べていることが示唆された.

本報は釣果写真に基づいた絶滅危惧種の分布の空白を埋める報告である. 種の保全, とりわけ絶滅危惧種に指定されている種の保全を行うにあたり, 分布や生息環境の利用に関する情報収集は非常に重要である (Lamoreux et al., 2006; Mota-Vargas and Rojas-Soto, 2012; Moore, 2018). また, 絶滅危惧種の情報蓄積において, 釣り人が持つデータを記録することの有用性も知られている (Gausmann and Hasan, 2022; Ogata and Murase, 2023). 今回の個体は大きさが 100 cm を超えており, 持ち帰って標本にすることが困難であった. 板鰐類やマンボウ類といった大型魚類の場合, 捕獲された個体の多くがその場で再放流もしくは解体されて標本は残らない. しかし, そのような中でも写真データを基にして分布や出現情報に関する研究が積極的に行われている (例えば, 藤井, 2015; 澤井, 2021; Ogata and Murase, 2023). このような標本の収集を伴わない生態学的研究は, 自然への負担をかけずに大型魚類の希少種を保全していくうえで有効であると思われる.

謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 日本さかな専門学校馬場孝典氏と古谷剛樹氏には釣獲の際にご協力を, 松田勇成氏には写真資料を提供していただいた. 神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士と東京大学総合研究博物館の和田英敏博士には, 写真資料の登録でご協力を賜った. また宮崎大学大学院農学研究科の齊藤洪成氏には文献収集のご協力を賜った. 以上の方々に対し, この場をお借りして厚く御礼申し上げます.

引用文献

萬代あゆみ・小枝圭太. 2022. シノノメサカタザメ科, p. 16. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編), 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.

- Bloch, M. E. and J. G. Schneider. 1801. M.E. Blochii, systema ichthyologiae iconibus ex illustratum. Post obitum auctoris opus inchoatum absolvit, correxit, interpolavit Jo. Gottlob Schneider, Saxo. Berolini, Sumtibus Auctoris Impressum et Bibliopolio Sanderiano Commissum, Berlin. lx, 584 pp, 110 pls.
- 藤井美帆. 2015. 伊豆東海岸定置網へのメガマウスザメ混獲事例. 板鰐類研究会報, 51: 21–23.
- Gausmann, P. and V. Hasan. 2022. New island records of the bull shark *Carcharhinus leucas* from Sumatra, Indonesia. Marine and Fishery Sciences, 35: 437–444.
- 波戸岡清峰・柳下直己・山口敦子. 2013. トンガリサカタザメ科. Pp. 200, 1769. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 岩坪洗樹・本村浩之 (編). 2017. 火山を望む寛海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島市・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 304 pp.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55.
- 環境省. 2017. 魚類 海洋生物レッドリスト(2017). (<https://www.env.go.jp/content/000037627.pdf>) (13 February 2024)
- Kyne, P. M., C. L. Rigby, Dharmadi and R. W. Jabado. 2019. *Rhina ancylostoma*. The IUCN Red List of Threatened Species 2019: e.T41848A124421912. (<https://www.iucnredlist.org/species/41848/124421912>) (13 February 2024)
- Lamoreux, J. F., J. C. Morrison, T. H. Ricketts, D. M. Olson, E. Dinerstein, M. W. McKnight and H. H. Shugart. 2006. Global tests of biodiversity concordance and the importance of endemism. Nature, 440: 212–214.
- Last, P. R., B. Séret and G. J. P. Naylor. 2016a. A new species of guitarfish, *Rhinobatos borneensis* sp. nov. with a redefinition of the family-level classification in the order Rhinopristiformes (Chondrichthyes: Batoidea). Zootaxa, 4117: 451–475.
- Last, P. R., W. T. White and B. Séret. 2016b. Wedgefishes, family Rhinidae. Pp. 65–76. In: Last, P. R., W. T. White, M. R. de Carvalho, B. Séret, M. F. W. Stehmann and G. J. P. Naylor (eds.), 2016. Rays of the World. CSIRO Publishing, Melbourne.
- Moore, A. B. M. 2018. Identification of critical habitat in a data-poor area for an endangered aquatic apex predator. Biological Conservation, 220: 161–169.
- Mota-Vargas, C., and O. R. Rojas-Soto. 2012. The importance of defining the geographic distribution of species conservation: the case of the Bearded Wood-Partridge. Journal of Nature Conservation, 20: 10–17.
- Ogata, Y. and A. Murase. 2023. Photographic evidence from a recreational angler of the northernmost record of the bull shark *Carcharhinus leucas* (Elasmobranchii: Carcharhinidae) in the western Pacific Ocean. Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom, 103: e80.
- 澤井悦郎. 2021. 写真に基づく徳島県からのヤリマンボウ, ウシマンボウ, およびマンボウ (マンボウ科) の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 1–6.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.